

**製品名: ER アルファ (12J19) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe10558**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:20-1:50
分子量	66kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ESR1
別名	ER; ESR; ESR1; Era; ESRA; NR3A1;
遺伝子 ID	2099.0
SwissProt ID	P03372
免疫原	ヒトエストロゲン受容体αの合成ペプチド

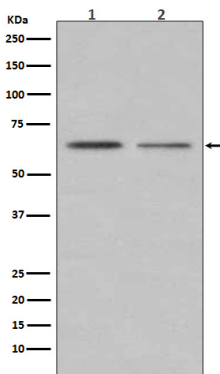
**背景**

ER (エストロゲン受容体1) はステロイド受容体スーパーファミリーの一員であり、高度に保存された DNA 結合ドメイン (DBD) とリガンド結合ドメイン (LBD) を有します。エストロゲン非依存性およびエストロゲン依存性活性化ドメイン (それぞれ AF-1 および AF-2) を介して、ER はコアクチベータータンパク質をリクルートし、転写機構全体と相互作用することで転写を制御します。リン酸化は ER 活性を制御する重要なメカニズムです。ER は複数の部位でリン酸化されます。核ホルモン受容体。ステロイドホルモンとその受容体は真核生物の遺伝子発現の制御に関与し、標的組織における細胞増殖と分化に影響を与えます。リガンド依存性核内転写活性化には、パ lindロームエストロゲン応答エレメント (ERE) 配列へのホモダイマーの直接結合、または AP-1/c-Jun、c-Fos、ATF-2、Sp1、Sp3 などの他の DNA 結合転写因子との結合が関与し、ERE 非依存シグナル伝達を媒介します。リガンド結合により構造変化が誘導され、各構成要素の LXXLL モチーフを介して、多タンパク質共活性化因子複合体との連続的または複合的な結合が可能になります。エストロゲン受容体 (ER) と NF- $\kappa$ B の間では、細胞型特異的な方法で相互転写抑制が起こります。NF- $\kappa$ B DNA 結合活性を低下させ、IL6 プロモーターからの NF- $\kappa$ B 媒介転写を阻害し、プロモーターから RELA/p65 および関連する共調節因子を排除します。CCL2 および IL8 プロモーターの NF- $\kappa$ B 応答エレメントにリクルートされ、CREBBP を置換することができる。ERE 配列上に NF- $\kappa$ B 構成要素 RELA/p65 および NFKB1/p50 と共に存在する。また、NF- $\kappa$ B と相乗的に作用し、それぞれのリクルートメントに隣接する応答エレメントを含む転写を活性化することができる。この機能には CREBBP が関与する。TFF1 の転写活性を活性化することができる。また、様々なキナーゼカスケードを含む膜誘導性エストロゲンシグナル伝達を媒介する。MTA1 を介した BRCA1 および BCAS3 の転写制御に必須である (PubMed:17922032)。

## 研究分野

シグナル伝達

## 画像データ



(1) MCF7 細胞溶解物、(2) T47-D 細胞溶解物における ER $\alpha$  発現のウエスタンブロット解析。